

鹿屋体育大学修士課程のカリキュラムポリシー

鹿屋体育大学大学院体育学研究科修士課程体育学専攻では、スポーツ、武道、体育及び健康づくりの分野において、専門的知識・技術の教育研究、高度な専門性が求められる職業を担うことのできる研究者や指導者の養成及び社会人の再教育を目的として、学術の理論並びに応用と実践が一体となった教育研究の展開が可能な教育課程を編成する。

●教育課程の編成の方針

- 1 スポーツ、武道、体育及び健康づくりの分野における教育研究能力及び高度の専門性を要する職業等に必要な基礎的能力を養うため、「共通科目」を必修科目又は選択科目として配置する。
 - スポーツ、武道、体育及び健康づくりの分野で求められる基礎的なリテラシー及びマネジメント力を涵養するための科目を配置する。
 - スポーツ、武道、体育及び健康づくりの分野で求められる基礎的な研究実践力及びディスカッション能力を涵養するための科目を配置する。
 - スポーツ、武道、体育及び健康づくりの分野で求められる基礎的な英語力を涵養するための科目を配置する。
 - キャリアを形成するための科目を配置する。
- 2 スポーツ、武道、体育及び健康づくりの分野における専門的知識・技術の教育研究能力及び高度の専門性を要する職業等に必要な能力を養うため、スポーツ・武道実践科学、スポーツ生命科学、スポーツ人文・応用社会科学の3領域について、基礎科目及び応用科目を学生の志向性に応じて選択できるよう配置する。

なお、基礎科目は主に理論を展開し、応用科目では理論の応用や実践を展開する。

 - スポーツ・武道実践科学領域：スポーツ、武道、体育及び健康づくりの実践的側面に関する専門的知識・研究法を追究するための科目を配置する。
 - スポーツ生命科学領域：スポーツ・身体活動への生体応答メカニズムに関する専門的知識・研究法を追究するための科目を配置する。
 - スポーツ人文・応用社会科学領域：スポーツ、武道、体育及び健康づくりの文化的、社会的側面に関する専門的知識・研究法を追究するための科目を配置する。
- 3 スポーツ、武道、体育及び健康づくりの分野における総合的な教育研究能力及び高度の専門性を要する職業等に必要な能力を活かし、修士学位論文をまとめるための科目を必修科目として配置する。
 - スポーツ、武道、体育及び健康づくりの分野における専門的知識・研究法を活かし、修士学位論文としてまとめるための科目を配置する。

●教育・学修方法に関する方針

学位論文の作成及びその他の修学上の指導を行うために、指導教員（１名）及び副指導教員（２名以内）を配置する。指導教員等の指導を十分に受けながら、研究分野及び研究内容等を考慮の上、１～２年次にかけて共通科目（６単位）、基礎科目及び応用科目（１２単位）、課題研究科目（１０単位）を履修するとともに、共通科目、基礎科目及び応用科目（２単位）を履修することを指導する。なお、特講と特講演習はセットで履修することを推奨する。学位論文は、指導教員等の指導の元、１年次より着手し、２年次において学位論文中間発表会及び発表会で発表できるように指導する。

●学修成果の評価の方針

各授業科目の学習成果の評価は、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行う。また、修士論文又は特定の課題についての研究の成果は、審査及び最終試験を修士論文審査基準に基づき適切に行う。